



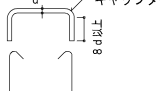



鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項


- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
- d 異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D 部材の成 R 直径 @ 間隔  
r 半径 Q 中心線 L 部材間の寸法距離 h 部材間の内法高さ  
ST スターラップ HOOP 帯筋 S. HOOP 補強帯筋 φ 直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折り曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の末端部又はスラブと同時に打ち込むT型及びL型梁のキャップタイにのみ用いる。 
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上				

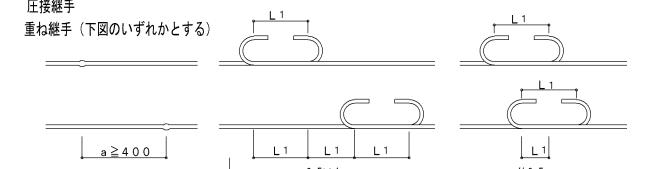
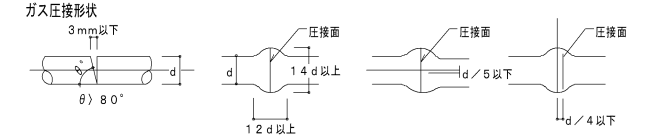
(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のり寸法。(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 D16 19φ以下 D19	3d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 D16 19φ〜25φ D19〜D25 28φ〜32φ D29〜D38	4d以上 6d以上 8d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ				小梁 スラブ フックなし	スラブ フック付
		(L1)	(L2)	(L3)	(L4)		
SD295A SD295B SD345	18	45d	35d	40d	30d	25d かつ 50mm 以上	15d
	21 24 27	40d	30d	35d	25d		
	30 33 36	40d	25d	30d	20d		
SD390	21 24 27	45d	35d	40d	30d		
	30 33 36	40d	30d	35d	25d		

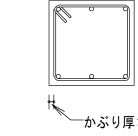
- 継手
1. 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない。
  2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
  3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする。
  4. 鉄筋径の差が、5mmを超える場合は、圧接としてはならない。
  5. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



(4) かぶり厚さ（単位：mm）

ひび割れ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

部	位	設計かぶり厚さ (mm)	最少かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋 内 30 屋 外 40(1)	30(20) 30(20)
	柱 耐力壁	屋 内 40 屋 外 50(2)	30 40(1)(30)
	擁 壁		50(3) 40
	土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁 基礎 擁 壁	50 40(4) 70 60(4)



- 〔注〕
- (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。
  - (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
  - (3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。
  - (4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
  - (5) ( ) 内は仕上げがある場合、改定により標準かぶり厚さは10mm増し

(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上  
組素材の最大寸法の1.25倍以上かつ2.5以上

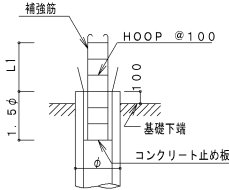
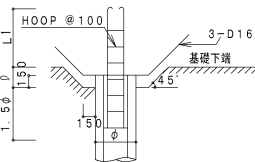


(6) 鉄筋のフック

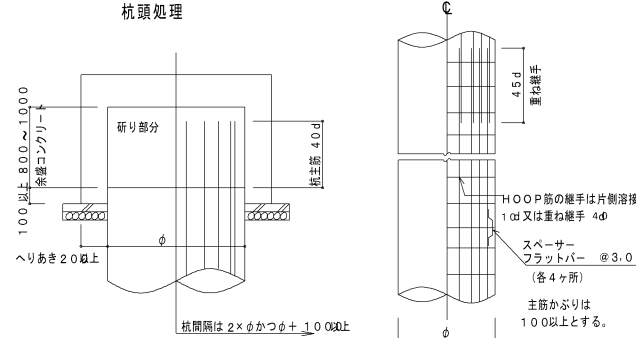
- (a〜fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)
- a. 丸鋼
  - b. あばら筋、帯筋、c. 煙突の鉄筋
  - d. 柱、梁（基礎梁を除く）の出すみ部分の鉄筋（右図参照）
  - e. 単独梁の下端筋
  - f. その他、本配筋標準に記載する箇所

３．杭（地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。）

(1) P C杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

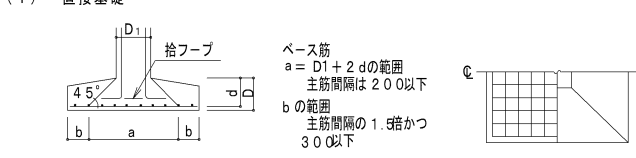
所定の位置に止まった場合		所定より低く止まった場合	
		<p>但し <math>L \leq \phi</math> の場合 <math>L &gt; \phi</math> の場合は工事監理者の指示による</p> 	
杭 径	300φ 以下	350φ~400φ	450φ~600φ
補強筋	4-D13	6-D13	8-D13
HOOP		D10-100 @	

(2) 現場打ちコンクリート杭

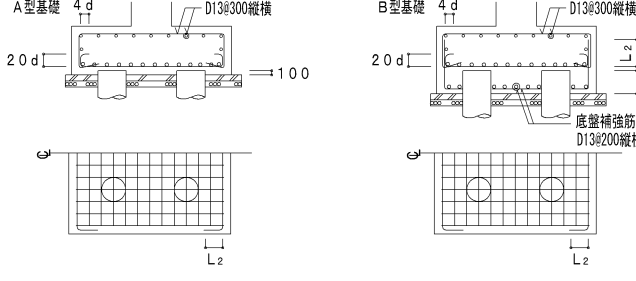


４．基 礎

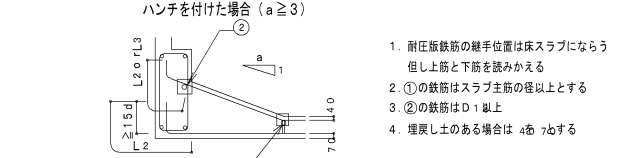
(1) 直接基礎



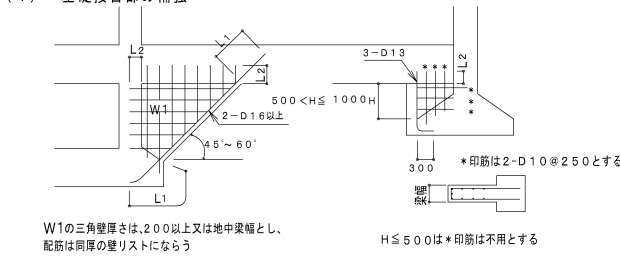
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

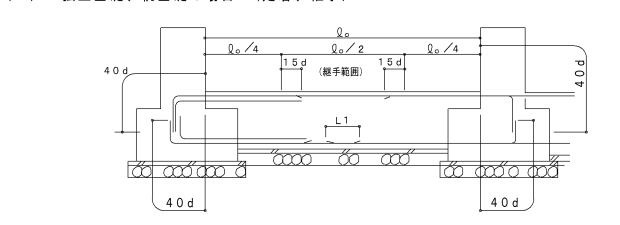


(4) 基礎接合部の補強

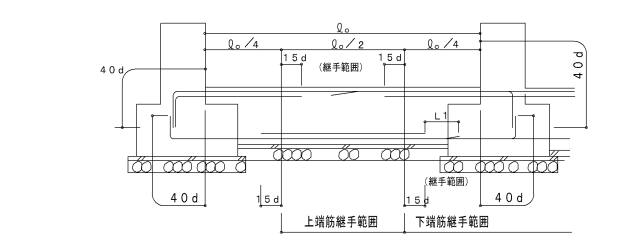


５．地 中 梁

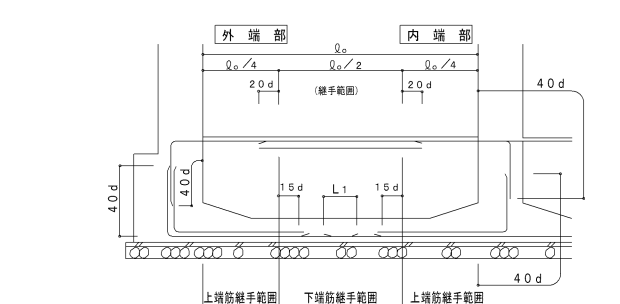
(1) 独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）



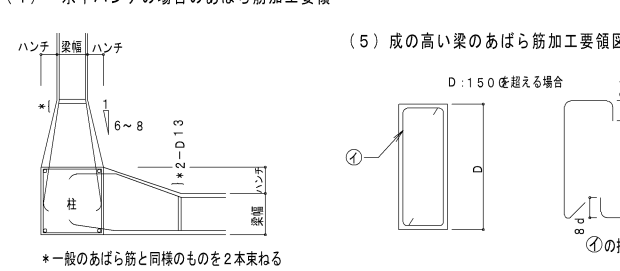
(2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合（定着、継手）



(3) 布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



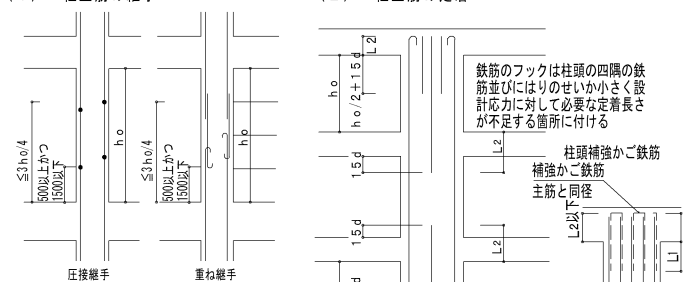
(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



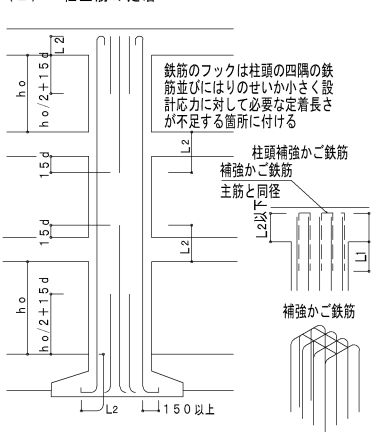
\*一般のあばら筋と同様のものを2本束ねる

６．柱

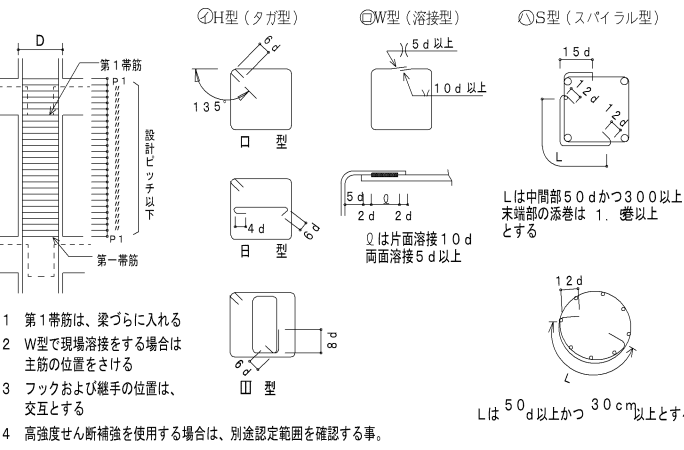
(1) 柱主筋の継手



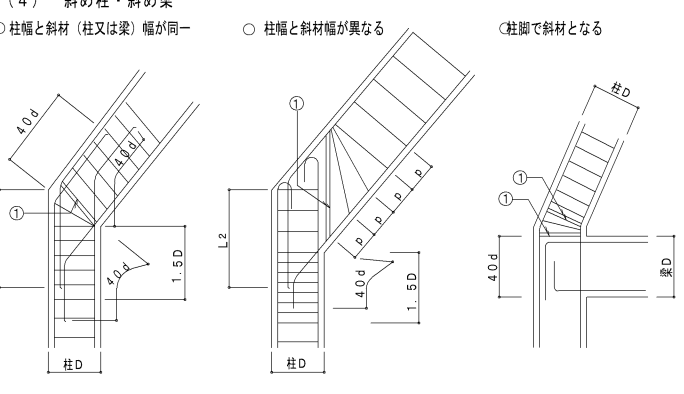
(2) 柱主筋の定着



(3) 帯 筋

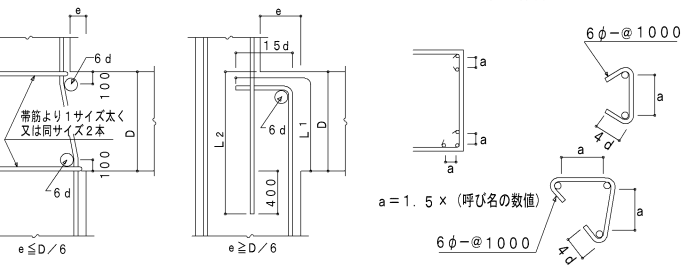


(4) 斜め柱・斜め梁

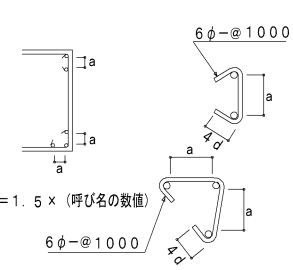


- 注1 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする。
- 注2 ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする。

(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



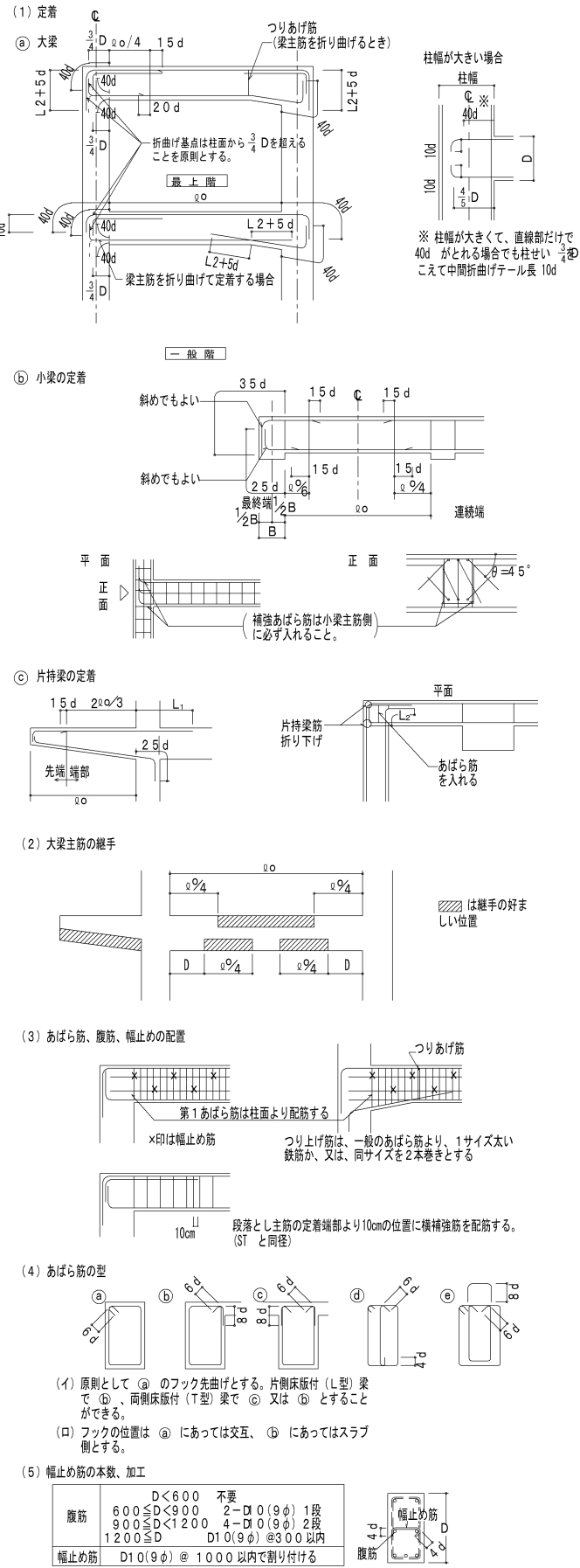
豊見山氏：堆肥舎

工事名称	宮多地区堆肥舎建築工事			工事年度	令和 5 年度	
工事場所	多良間村字塩川12732番地			図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）	
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社			縮 尺	noscale	
適 要				図面番号	S-02	
				設 計 者	名 称	建築設計 a i r
備 考	管理建築士 設 計 製 図				資格者氏名	下 地 秀 政
					登録番号	一級建築士 登録 第313070号
					所 在 地	宮古島市平良字下里1201-6(1階)

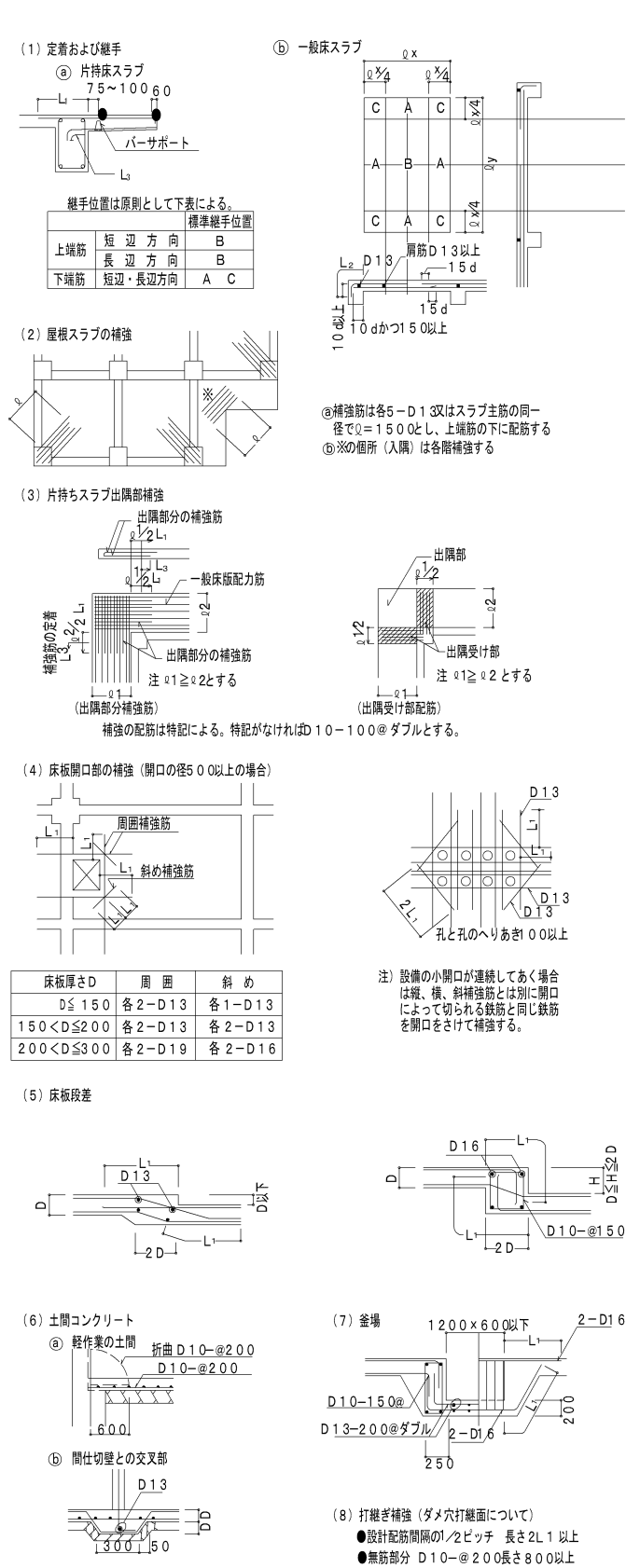
鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

Ｌ＝鉄筋コンクリート構造配筋  
標準図（１）の２－（３）による。

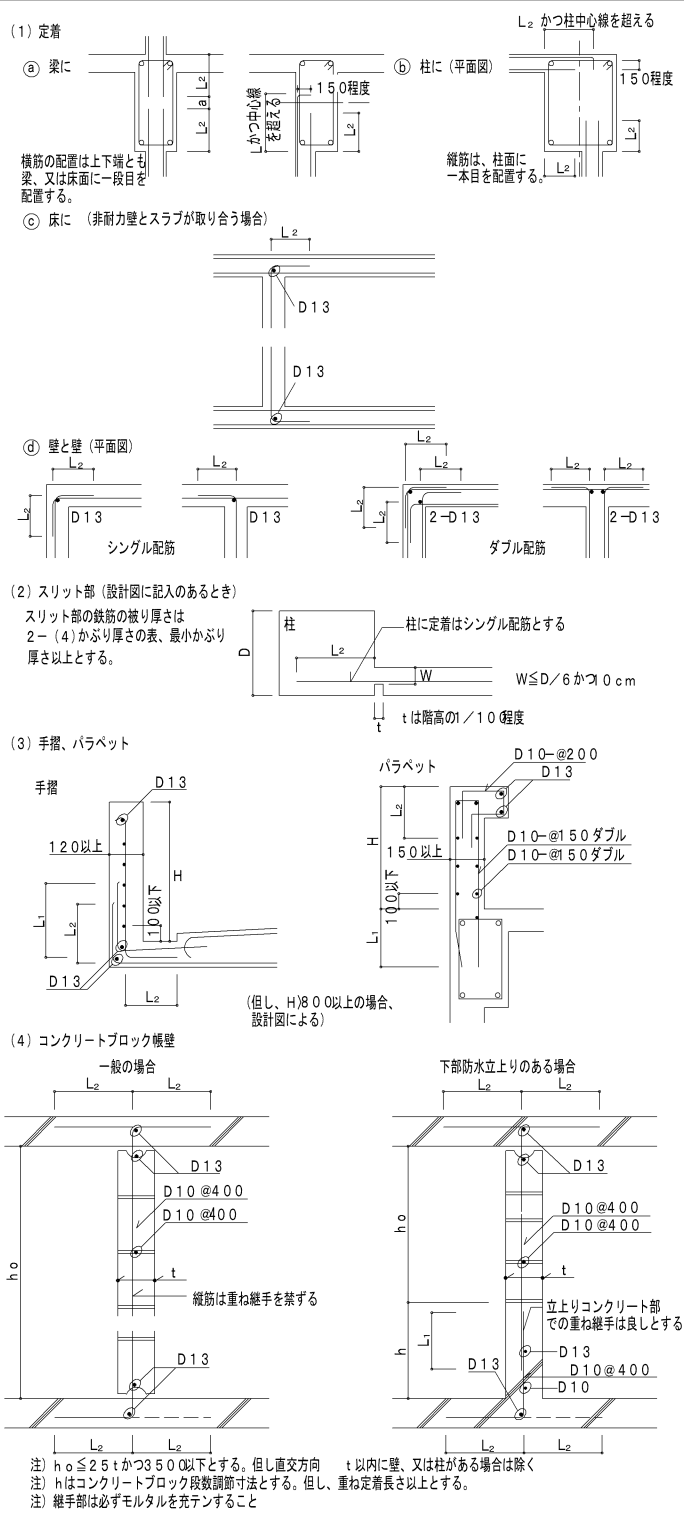
7. 大梁、小梁、片持梁



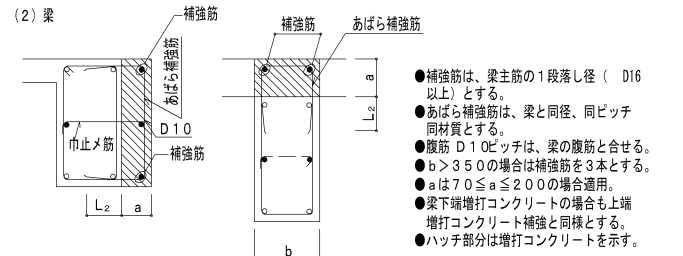
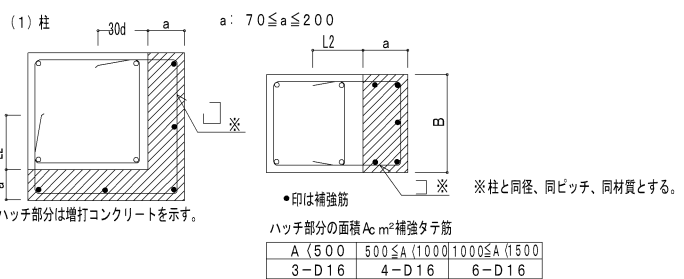
8. 床 板



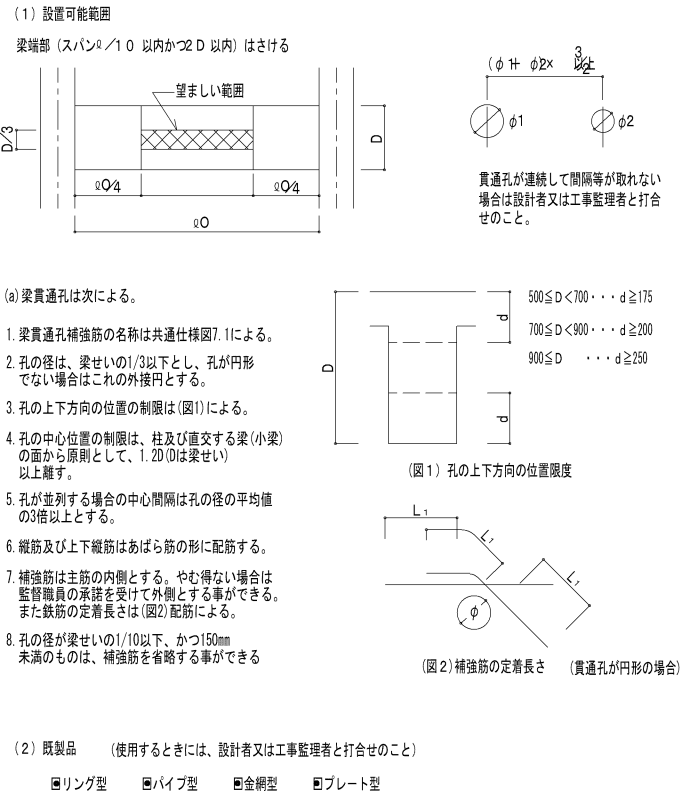
9. 壁



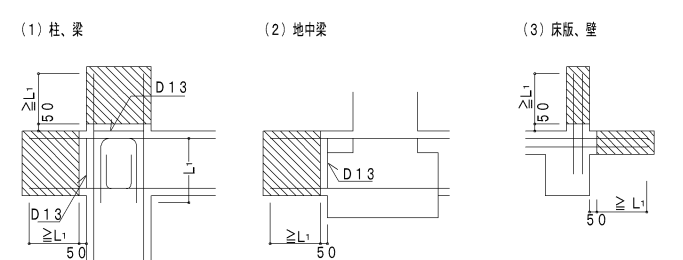
10. 柱、梁増打コンクリート補強



11. 梁貫通孔補強



12. 増築予定



豊見山氏：堆肥舎

工事名称	宮多地区堆肥舎建築工事	工事年度	令和 5 年度
工事場所	多良間村字塩川2732番地	図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社	縮 尺	noscale
適 要		図面番号	S-03
		設 計 者	名 称 建築設計 a i r 資格者氏名 下 地 秀 政 登録番号 一級建築士 登録 第313070号 所 在 地 宮古島市平良字下里1201-6(1階)
備 考	管理建築士	設 計	製 図


## ボーリング柱状図

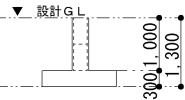
調 査 名 : 宮多地区建築設計委託業務

事業・工事名：

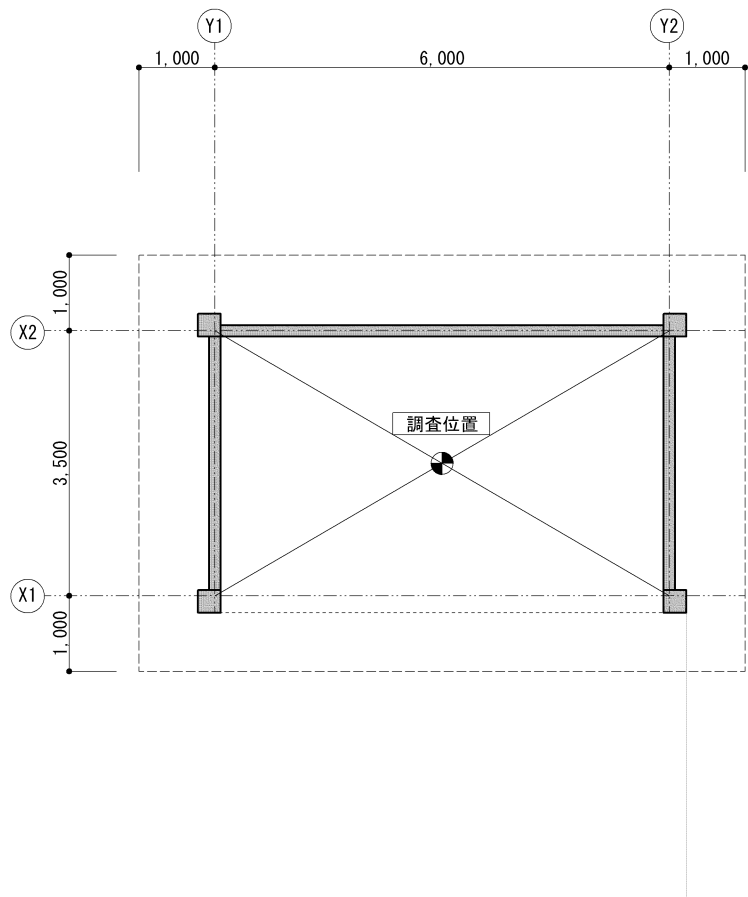
[illegible]

シートNo. 1

ボーリング名	豊見山武雄肥舎		調査位置		宮古島市多良間字塩川12732					北 緯		
発 注 機 関	建築設計 a i r				調査期間	令和 4年11月 30日 ~ 令和 4年 11月 30日					東 経	
調 査 者 者 名	宮古ボーリング調査 宮古島市平良字荷川取486-4 TEL:0980-79-0321		主任技師		現 場 代 理 人	コ ア 鑑 定 者		上原 拓海		ボーリング 責任者	地質調査技士 上原 浩人	
孔 口 標 高	KBM=0.00 -0.12 m	造 上 90° 下 0°			陸 隆 分 度 90°	水 平 0°	溶 出 建 造		試 錐 機	YBM05-DA-2  ハンマー 落下用具		半自動落下型
総 掘 進 長	5.00 m	掘							エンジン	YANMAR TF90EV  ポン プ		YS-302

[illegible]

- ※ 支持力  $q_a = 250 \text{ KN/m}^2$
- ※ 支持層 N 値 : 25 以上.
- ※ 支持層 : 琉球石灰岩.

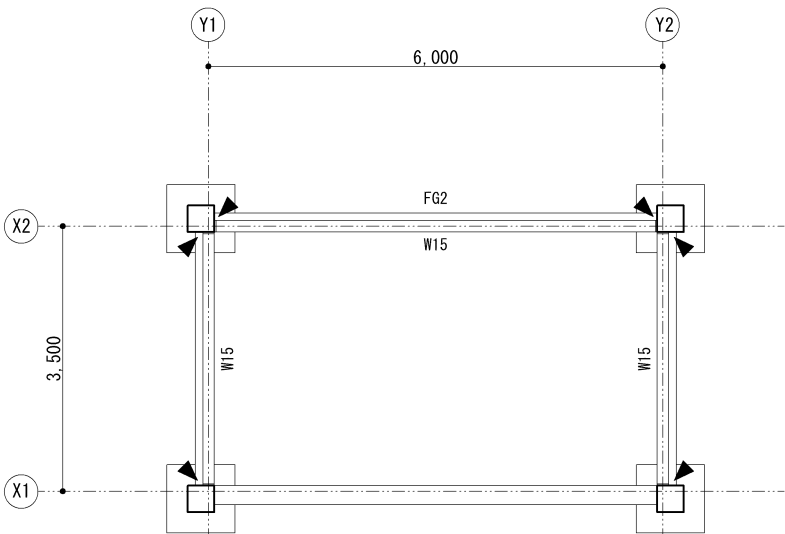


地質調査位置

A1:1/50-A3:1/100

豐見山氏：堆肥舎

工事名称				宮多地区堆肥舎建築工事		工事年度		令和 5 年度		
工事場所				多良間村字塩川2732番地		図面名称		柱状図		
発注機関				公益財団法人 沖縄県農業振興公社		縮 尺		A1:S=1/50・A3:S=1/100		
摘 要						図面番号		S-04		
備 考		管理建築士		設 計	製 図	設 計 者	名 称		建築設計 a i r	
							資格者氏名		下 地 秀 政	
							登録番号		一級建築士 登録 第 313070 号	
							所 在 地		宮古島市平良字下里1201-6(1階)	

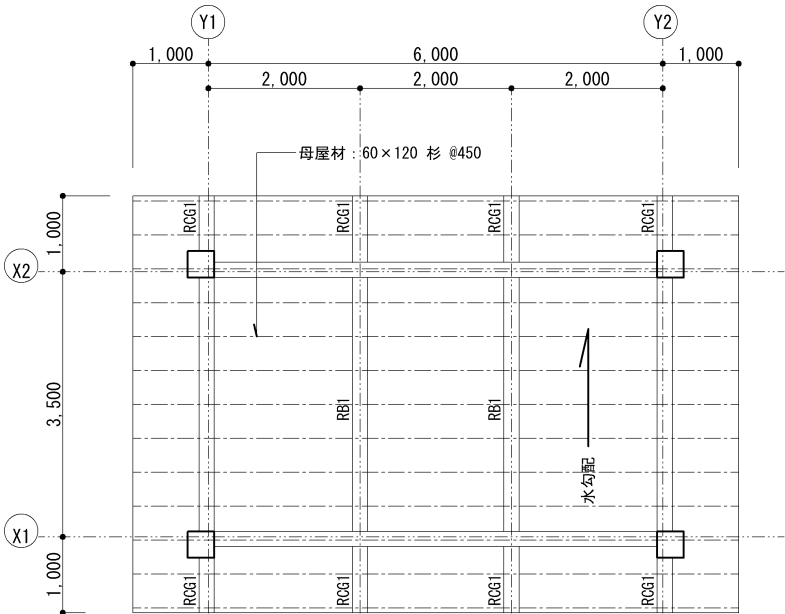


■ 特記事項

- ※ 表示無き柱はC 1とする。
- ※ 表示無き梁はF G 1とする。
- ※ 表示無き基礎はF 1とする。
- ※ ▼は構造スリット (W=25mm)

基礎伏図

A1:1/50・A3:1/100



■ 特記事項

- ※ 表示無き梁はR G 1とする。

梁伏図

A1:1/50・A3:1/100

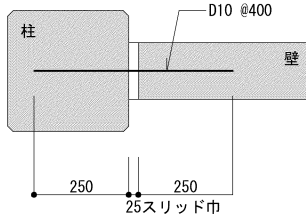
■ 梁リスト

A1:1/30・A3:S1/60

符 号	F G 1	F G 2	R G 1・R B 1	R C G 1
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面				
断面寸法	250×500	250×500	200×500	200×300
上端筋	2-D19	4-D19	2-D19	2-D19
下端筋	2-D19	4-D19	2-D19	2-D19
S T P	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@150
腹 筋	-	-	-	-
幅止筋	-	-	-	-

※ 最上階柱頭筋の定着は配筋標準図(1)6.柱(2)に準ずること。

※ 柱、梁仕口内フープ筋およびピッチは設計配筋と同等とし、配筋標準図(1)6.柱(3)に準ずること。



■ 構造スリット配筋図

- ※ スリットは完全スリットとし、資料を提出して係員の承認を得ること。
- ※ スリット材は、耐震性・耐久性・止水性に優れた製品を使用すること。
- ※ スリット材は、耐火認定スリットとする。

■ 柱リスト

A1:1/30・A3:S1/60

符 号	C 1
断 面	
断面寸法	350×350
主 筋	8-D19
帯 筋	D10-@100
備 考	

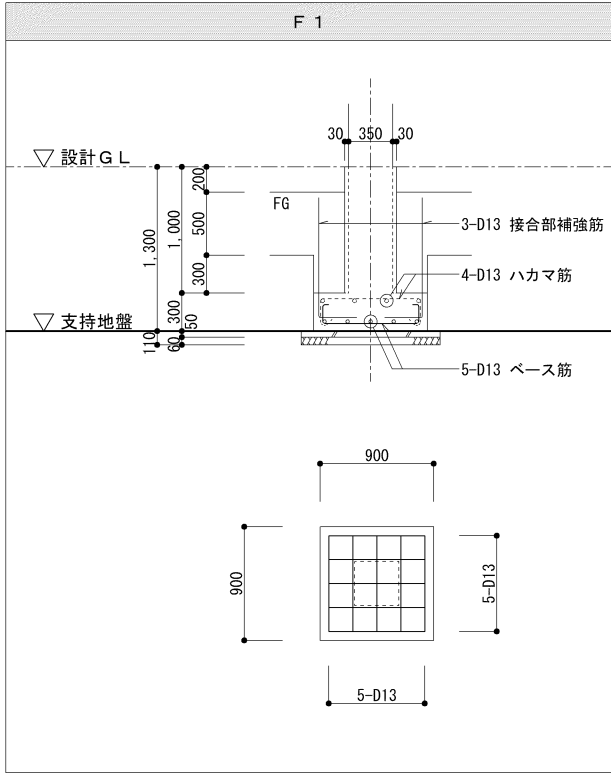
■ 壁リスト

A1:1/30・A3:S1/60

符 号	W 1 5
壁 厚	150
断 面	
縦 筋	D10-@200
横 筋	D10-@200
開 口 補強筋	縦 筋 2-D13 横 筋 2-D13 斜 筋 2-D13
端部補強筋	2-D13

■ 基礎リスト

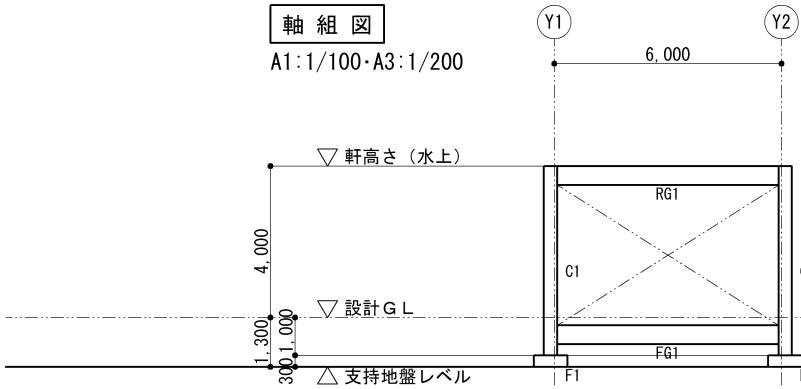
A1:1/30・A3:S1/60



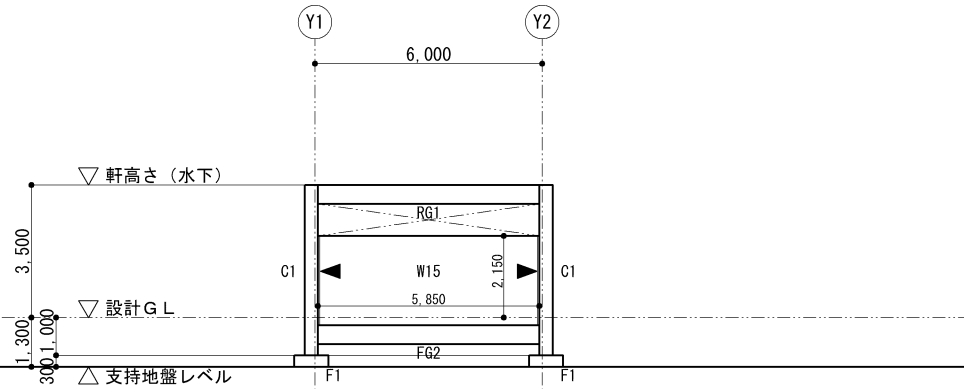
※ 基礎と地中梁の接合部の補強は配筋標準図(1)4.基礎(4)に準ずること。

軸組図

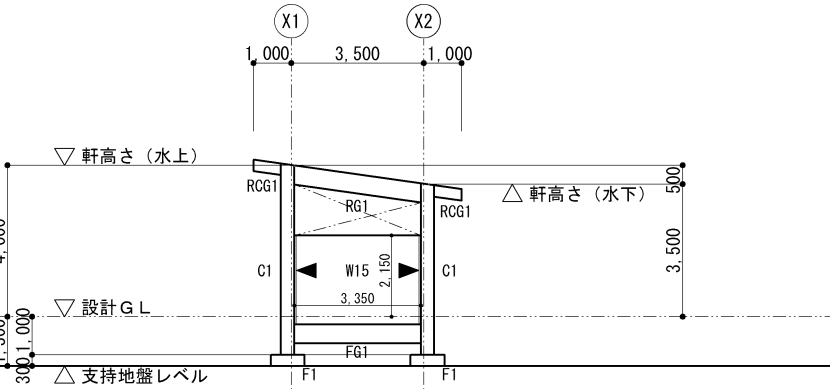
A1:1/100・A3:1/200



X1 軸組図



X2 軸組図



Y1、Y2 軸組図

■ 特記事項

- ※ ◀は構造スリット (W=25mm)

				豊見山氏：堆肥舎	
工事名称	宮多地区堆肥舎建築工事			工事年度	令和 5 年度
工事場所	多良間村字塩川2732番地			図面名称	伏せ図・部材リスト・軸組図
発注機関	公益財団法人 沖縄県農業振興公社			縮 尺	図 示
摘 要				図面番号	S-05
	管理建築士	設 計	製 図	名 称	建築設計 a i r
備 考				資格者氏名	下 地 秀 政
				登録番号	一級建築士 登録 第 313070 号
				所 在 地	宮古島市平良字下里1201-6(1階)